2023年度 大学院(修士課程)入学試験問題

(政策学研究科)

(科目名:公共政策学)

2022年11月12日(土)

受験番号		氏名	

問い　以下の（1）～（3）よりいずれか1つを選択し、解答せよ。

（1）　ハロルド・ラスウェルが『政策科学序説』(1971年) で提起した「inの知識」(knowledge in the decision process) と「ofの知識」(knowledge of the decision process) とはどのようなものか。説明しなさい。

（2）松下圭一が『シビル・ミニマムの思想』(1971年) 等で提起した「シビル・ミニマム」とはどのような概念か。説明しなさい。

（3）　2022年10月14日に閣議決定された新たな「自殺総合対策大綱～誰も自殺に追い込まれることのない社会を目指して」では、自殺はこれまで (A)「個人の問題」として認識されがちであったが、現在では広く (B)「社会の問題」と認識されるようになってきたとされている。(A) と (B) の立場にはそれぞれどのような違いがあるのかという点を説明しなさい。その上で、自殺を「社会の問題」とみる視角にはどのような意味があるのかについて論じなさい。

(参考)「自殺総合対策大綱」(令和4年10月14日閣議決定) (抄)
(「第1　自殺総合対策の基本理念」より引用)

平成18年10月に自殺対策基本法（以下「基本法」という。）が施行されて以降、「個人の問題」と認識されがちであった自殺は広く「社会の問題」と認識されるようになり、国を挙げて自殺対策が総合的に推進された結果、自殺者数は3万人台から2万人台に減少するなど、着実に成果を上げてきた。しかし、自殺者数は依然として毎年2万人を超える水準で推移しており、さらに令和2年には新型コロナウイルス感染症拡大の影響等で自殺の要因となり得る様々な問題が悪化したことなどにより、総数は11年ぶりに前年を上回った。特に、小中高生の自殺者数は、自殺者の総数が減少傾向にある中においても、増加傾向となっており、令和2年には過去最多、令和3年には過去2番目の水準になった。このように非常事態はいまだ続いており、決して楽観できる状況にはない。

自殺は、その多くが追い込まれた末の死である。自殺の背景には、精神保健上の問題だけでなく、過労、生活困窮、育児や介護疲れ、いじめや孤独・孤立などの様々な社会的要因があることが知られている。このため、自殺対策は、社会における「生きることの阻害要因（自殺のリスク要因）」を減らし、「生きることの促進要因（自殺に対する保護要因）」を増やすことを通じて、社会全体の自殺リスクを低下させる方向で、「対人支援のレベル」、「地域連携のレベル」、「社会制度のレベル」のそれぞれのレベルにおいて強力に、かつそれらを総合的に推進するものとする。

自殺は、その多くが追い込まれた末の死であることや、自殺対策の本質が生きることの支援にあることを改めて確認し、「いのち支える自殺対策」という理念を前面に打ち出して、「誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現」を目指す。

解答用紙の先頭行に選択番号を記してから論述を始めること。

得点

2023年度 大学院(修士課程)入学試験問題

(政策学研究科)

(科目名:地域・都市政策)　　2022年11月12日(土)

受験番号		氏名	

以下の問１、２のどちらにも解答してください。(解答用紙に設問、選んだ語句の番号を記載すること)

問１．次の語句から２つ選び、我が国における地域・都市政策の展開、現代的課題や対応策について、具体的な事例を交えて、１つにつき600文字以内で説明してください。

(1) 地域コミュニティ　　(2) コンパクトシティ
(3) パークマネジメント　　(4) 住民自治組織
(5) 都市農地　　(6) 空き家・空き地
(7) 限界集落　　(8) 中心市街地活性化

問２．上記の語句をいくつか使って、今後、持続可能な地域・都市開発に求められる政策について、自身の考えを600文字程度で述べてください。なお、問１の解答と内容が重複しないよう留意してください。